

(4) 嬉野市の学校評価のイメージは、「創造」です。

学校評価は、「受け身的」ではなく、学校改善のための欠くことのできない手段として「積極的」に捉え、さらに今までの限界認識に対して「創造する」という意識改革が肝要であると考えます。

ネガティブ



ポジティブ



カエイティブ

消極的



積極的



創造的

待つ姿勢

評価を受ける

形骸化した行事消化的

依頼する姿勢

評価を求める

意欲的な取組

開発する姿勢

評価を創造する

創造的機動的な組織力

教職員のスタンスと地域に対するスタンス

仕事をいただく
地域を待つ



仕事を求める
地域に呼びかける



仕事を創造する
地域に出て行く

○ 地域の声を待つ

来校を待つ

○ 読み聞かせボランティア

を学校で待つ

○ 地域の声を求める

アンケートをお願いする

○ 高学年が低学年に読

み聞かせをする

○ 地域の声を聞きに行く

地域懇談会で話し合う

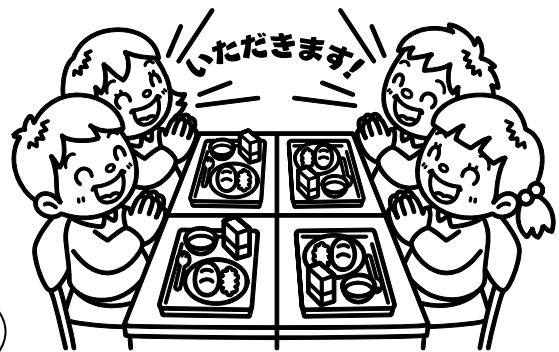
○ 読み聞かせボランティア

のために保育園へ行く

嬉野市の学校評価のキーワード

楽しい学校の“創造”

カエイティブ



① 学校自己評価を補完する「学校関係者評価」の創造

(学校理解の限界、説明責任の限界、評価内容の限界)

② 説明責任を果たす「情報提供」の創造

(情報内容、情報提供の手段の限界)

③ 教職員の「全員参画」による学校改善方策の創造

(多忙感、やらされ感、評価システム機能の形骸化)

④ 「学校・地域連携」の創造

(情報提供の限界、学校理解の限界、学校への参集の限界)

⑤ 「小中連携」の創造

(教職員の相互理解の限界、合同研究・交流授業等時間設定の限界)